



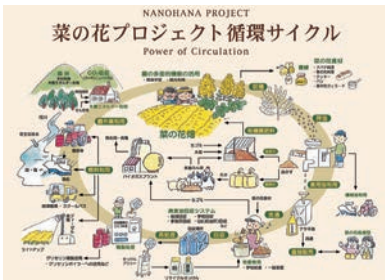
菜の花曼荼羅の10のテーマは「次の行動目標」になり、「活動の幅を広げる指針」となってくれます。

1 地域モデルをつくる

地域にある資源を地域で循環・活用することで「ゴミを減らし」「地域環境をマネジメントし」「地域経済の持続性を高める」。それを表現したのが「菜の花プロジェクトの資源循環サイクル図」です。

地球が狭くなりグローバル経済は相互依存関係を強めています。それでも「地域でまかなえるものは地域で」というのが「自律と自立」を基本とする私たちのつくってきた地域モデルです。

その地域モデルを社会化するためには政治との連携が必要です。「菜の花議員連盟」などローカル、ナショナル、グローバルな政治との連携を進めてきました。



2 知識・知恵・ノウハウの創造と交換

草の根の取り組みから始まった菜の花プロジェクトが、その活動に「ダイナミズム（躍

動性）」と「クリエイティビティ（創造性）」を保持するために「自らの活動を高める」とともに「お互いが学びあう場と機会」を用意してきました。

2001年に生まれた「菜の花プロジェクトネットワーク」、同じ年から始まった「全国菜の花サミット」をベースキャンプにして、次世代育成を目指す「全国菜の花学会・楽会」や国内外の「エコ視察」、「菜の花エコ革命」や「菜の花エコ事典」などの出版、また「ホームページ」「フェースブック」などによる情報交流を進めてきました。

活動拠点としてつくった「あいとう菜の花館」も「知識・知恵・ノウハウの創造と交換の場」として機能してきました。

3 地域の活力再生

「エコロジー」と「エコノミー」は菜の花プロジェクトがもっとも重要視するテーマです。「エコロジーはエコノミー」でなければいけません。それが持続可能な地域をつくります。

常に最先端の取り組みを進める努力をしながら、その活動を視察に訪れる人を「教育視察観光」と位置づけ地域の活力にしていきます。



験観光」です。

常に人々が関心を持って注目してくれる地域をつくることから地域の活力再生が始まります。

4 一次産業の再生

びわ湖の保全と再生に取り組む中で「びわ湖の中だけでなく、それを取り巻く農地、さらにそれを取り巻く山の再生の必要性」を学びました。

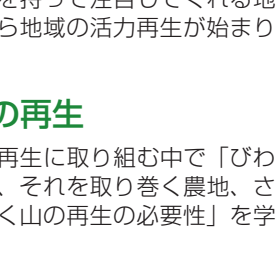
びわ湖を守る農地や山の再生のためには一次産業の再生が不可欠です。

「BDF燃料を農業機械やびわ湖の船舶で利用する」「休耕地で菜の花栽培を行う」といった取り組みや、農業だけで農業を再生するのではな

BDF燃料による自家発電電気でのイルミネーションイベント「コトナリエ」や「菜の花畑のライトアップ」などは楽しんでもらいながらの「体

験観光」です。

常に人々が関心を持って注目してくれる地域をつくることから地域の活力再生が始まります。



く地域で行われている様々な取り組みをつなぐ（ハンドシェーク＝握手）ことで農業を再生しようという取り組みが「ハンドシェーク・プロジェクト」です。

一次産業のもつ「多面的機能」とよばれる触手の多さは、さまざまな現代の課題と握手させることで一次産業そのものを再生させる潜在力を持っています。

5 食の自立

「我が国の食の自給率4割」は私たちの生存に必要なカロリーから算出された食の自給率です。この数字だけでも食の安全確保は十分とはいえませんが「食の質」の側面からも「遺伝子組み換え」「農業・ポストハーベスト」「化学肥料」など輸入食物に頼りすぎる現状は、決して持続的とはいえません。

ナタネも国産ナタネの自給はわずか0.1%。そのほとんどが輸入であり、しかも輸入菜種油のほとんどが遺伝子組み換えナタネです。

食の自立のために「国産ナタネの栽培」「国産バージンオイルの利用促進」に取り組むとともに、それぞれの家庭に伝わる家庭料理を一堂に集めた「家庭料理大集合」と「自慢料理

理のレシピ作成」などを行ってきました。こうした積み重ねが「農家レストラン」などの展開につながっています。

6 エネルギーの自立



我が国では、食の自給率が40%なら「エネルギーの自給率」はわずか4%です。「食とエネルギーの地産地消」を進めることは私たちの生存にとって不可欠です。

家庭などから出る廃食油のせつけんリサイクルに限界を感じていたところに、ドイツに学んだのはナタネ油エネルギー（BDF）でした。私たちは廃食油をBDF燃料に精製し「バスや船などの燃料としての地域内活用」から始めました。

「BDFカートづくりと試乗会」の取り組みもその普及の一環としてすすめてきました。地域が生み出すエネルギー利用を考えようと「バイオエナジー利用研究会」の連続講座に取り組み、太陽の恵みを利用した「市民や地域の共同発電所づくり」、森が生み出す材を活用した「木質バイオマス利用」、「畜産糞尿発電」や「小水力発電」などに他のNPOや地域とも連携しながら進めてきました。

7 働く場の確保

持続可能な地域であるためには「地域で働ける場をつくる」ことが何より大事です。少子高齢化とともに若者の地域からの流出が続いてい



ます。いつときの若者の流出はやむを得ないとしても自分のふるさとにUターンする人や、この地域の魅力に惹かれてUターンとしてやってくる人を生み出すためには「田舎に仕事をつくる」ということが大事です。

地元の農業高校と連携して「田舎に仕事をつくる・プロジェクト」を立ち上げ、農業高校生たちがつくった食材をつかって「高校生レストラン」「高校生カフェ」を立ち上げました。高校生が丹精を込めて生産した安心・安全で質の高い農作物にさらに付加価値をつけて提供することで「仕事」「働く場」をつくり出す試みです。

いま「農家レストラン」が誕生し、「農家民泊」「農家民宿」が広がっています。まだまだ「田舎に仕事をつくれる可能性」はいっぱいあります。

8 環境保全

全国で初めてで唯一といわれた「滋賀県環境生活協同組合」。その誕生は、びわ湖を守る県民ムーブメントになった「せつけん運動」でした。

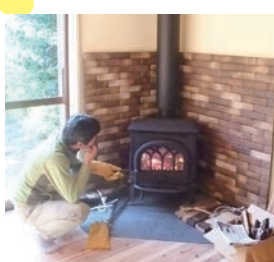
「廃食油回収運動」はその一環であり菜の花プロジェクトの出発点です。

これらの運動の特徴は「代案提示の運動」ということです。反対のための反対ではなく、常に代案を示し、それへの共感の拡大を運動の基礎においてきました。そのためにはしっかりと学びが必要であり専門家とのネットワークが不可欠です。

「水の自主管理が水環境保全の基本」という学びから「合併浄化槽普及」や「雨水利用」に取り組んできました。また、環境に負荷の少ない商品を使う「グリーン購入」や地元スーパーと一緒に環境負荷の少ない商品を提供する「エコナビ（エコロジカルなナビゲーターの意）トルネード」という活動も進めてきました。

びわ湖を抱える滋賀県で生まれた菜の花プロジェクトの活動の原点は「びわ湖を守ること」「びわ湖の環境再生活動」にあります。

9 スローライフ



問題でした。そしてそれは今に続くCO2大量排出をはじめとする地球温暖化・気候変動問題になっています。

この大量消費社会の舵を切るためには「社会の仕組みを変える＝地域モデルをつくる」とともに、「私たちのライフスタイルを変える」ことが大事です。

「スローライフ」という言葉に象徴されるように、「お金によって計られる豊かさ」でない「本当の豊かさ」を求める人々がいます。「半農半X」というライフスタイル、「まきストーブの炎に癒やしを感じる人たち」「移動の早さより自転車を利用する人たち」「美味しいだけでなく安心して食べる食材を選ぶ人たち」「環境に負荷の少ないグッズを利用する人たち」などなど。

菜の花プロジェクトはそういう人たちこそ「おしゃれ」だと思います。

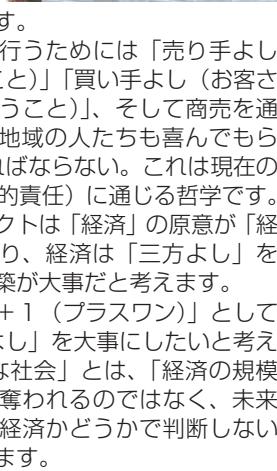
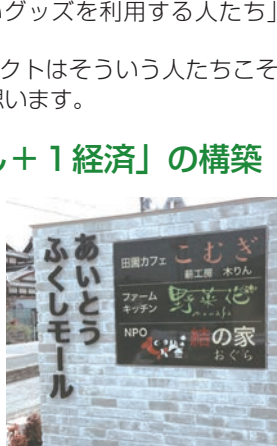
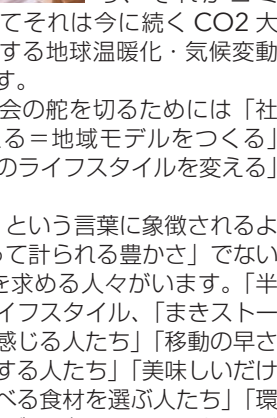
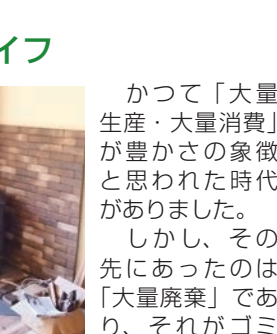
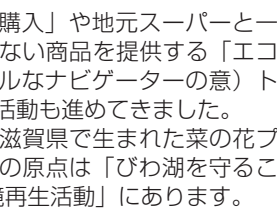
10 「三方よし+1経済」の構築

2001年第1回菜の花サミットでこの「三方よし+1経済」の提案をしました。

「三方よし」とは江戸期に全国を股にかけて活躍した近江商人の「商人哲学」です。

商売を持続的に行うためには「売り手よし（自分がもうかること）」「買い手よし（お客さんにも喜んでもらうこと）」、そして商売を通じて「世間よし（地域の人たちも喜んでもらうこと）」でなければならない。これは現在のCSR（企業の社会的責任）に通じる哲学です。菜の花プロジェクトは「経済」の原意が「経済済民」である限り、経済は「三方よし」を倫理に据えた再構築が大事だと考えます。

そして同時に「+1（プラスワン）」として「孫子（まごこ）よし」を大事にしたいと考えます。「持続可能な社会」とは、「経済の規模拡大」だけに目を奪われるのではなく、未来世代にとっていい経済かどうかで判断しないといけないと考えます。



「菜の花曼荼羅」が教えるもの

この社会を「持続可能な社会」にするために
私たちがしなければならないことはたくさんあります。
しかし、全部は無理でも出来ることもまたいくつもあります。

大事なことは「あなた自身」です。
「主人公はあなた」です。

菜の花プロジェクトネットワークはこれまでの活動を通じて、
その主人公であるあなたに重要で不可欠なキーワードを提示します。

「自律と自立」

自律 = Autonomy
自立 = Independence

「他律」の反意語である「自律」。
他人に決めてもらうのではなく、自分の頭で考え、自分が選択すること。

「従属」の反意語である「自立」。
誰かのいいなりになるのではなく、自分の足で立ち、自ら動くこと。

「自ら考え・自ら行動する力」を高めると、活動に広がりがあります。
菜の花プロジェクトネットワークは「自律と自立の人々の集合体」です。

さあ、私たちと一緒に確実な持続可能な社会づくりにむけて！

特定非営利活動法人 菜の花プロジェクトネットワーク

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 3 番地

TEL. 0748-46-4730 FAX. 0748-46-4550

E-mail. webmaster@nanohana.gr.jp

<http://www.nanohana.gr.jp>

近畿ろうきん「社会貢献預金・すまいる」の2015年度寄附を受けています。



菜の花プロジェクトネットワークが取り組んできた活動を
「菜の花曼荼羅」として整理しました。